

開講年度	令和8年度	開講課程	博士前期課程
授業名	医療薬学特別研究		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	12単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態生理学) 基礎免疫学、感染症、ワクチン (薬品作用学) 薬理学、生命科学 (薬剤学) 薬剤学、製剤設計		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬	(病態生理学) 教授 佐藤慎太郎、助教 民谷繁幸、助教 中村有孝 (薬品作用学) 教授 新谷紀人、講師 岩田圭子 (薬剤学) 教授 門田和紀、講師 福田達也	
授業の概要	医療薬学の各分野において修士論文作成の指導を行う。研究計画の立案方法や実験手技を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して医療薬学の進展に貢献できる高度な研究能力を身につける。		
到達目標	<p>(病態生理学) 実験を行い、データを収集、解析し、考察を行うことができる。</p> <p>(薬品作用学) 情報検索と研究課題の設定、実験計画の立案と実施、データ処理と結果の解釈、さらには研究成果の取り纏めと発表まで、一連の研究活動ができる。</p> <p>(薬剤学) 粒子設計、物性評価、細胞実験、動物実験、研究成果のまとめ・発表について理解する。</p>		
授業計画	<p>(病態生理学) 感染症免疫を中心に、免疫学に関係する研究を行う。(佐藤慎太郎/民谷繁幸/中村有孝)</p> <p>(薬品作用学) 脳やミトコンドリアをひとつの切り口とした基礎研究・応用研究を行う。研究内容に応じて教員が実験手技、情報やデータの収集法、データ処理法を指導する。(新谷紀人/岩田圭子)</p> <p>(薬剤学) 種々の製剤機器を用いての粒子設計、評価は、研究内容に応じて教員が指導する。(門田和紀/福田達也)</p>		
授業の方法・形態	演習を中心とする。		

使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%（研究課題の設定内容、研究の遂行状況）によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。